

令和4年度 光市青少年問題協議会会議結果報告書

- 1 会議の名称
令和4年度光市青少年問題協議会
- 2 開催日時
令和5年2月2日（木）18時～19時30分
- 3 開催場所
光市教育委員会1階ホール
- 4 出席者
光市青少年問題協議会委員17名（3名欠席）
- 5 公開・一部非公開の別
公開

6 会議の議事録（要旨）

（1）会長あいさつ

昨年、本協議会は新型コロナの感染拡大により急遽中止といたしましたので、本日の協議会は2年ぶりの開催となります。光市では一昨年度より「小中一貫教育」がスタートし、中学校区をひとまとまりとした学園ごとに連携と協働を基盤とした地域とともにある学校づくりを推進しています。

本日の協議会では、やまと学園の子どもたちが「地域や家庭と協働して取り組んだ実践事例」などを大和中学校にご紹介していただきます。やまと学園では小中一貫教育と大和地域との文化の融合による「大きな和の里」という学びの共同体の中で、各地域の特色を生かしながら様々な活動を積極的に行っておられます。発表では、地域の伝統行事や文化を大切にしつつ、新たな企画や創意工夫した行事にも意欲的にチャレンジしている子どもたちの様子をお話いただけるのではないかと思います。

また今年度は、2年の任期である本協議会委員を新たに委嘱する年度となっており、10名の新委員の方をお迎えし、新体制でのスタートとなっています。

私たち委員はもちろんのこと、各地域の指導者や大人が、感染防止の徹底を図りながら、子どもたちの柔軟で前向きな発想を受け止め適切に助言していくことで、コロナ禍を乗り越え、子どもたちの「前向きな心」を育み伸ばす地域ぐるみの新たな活動や取組が生まれてくることを期待しています。

（2）委員委嘱（2年が任期であり、今年度は全委員が新規での委嘱）

（3）所管説明

ア 光警察署

- ・管内の少年非行の補導状況等について

イ 光市教育委員会

- ・児童生徒の現状と今年度の取組について

（4）これまでの経緯（事務局）

本協議会では、一昨年度から「前向きな心」を新しいテーマに掲げ、青少年の問題について協議を進めてきています。2年前の協議会では、「コロナ禍の中での島田中学校区での取組」と題して、子どもたちの前向きな心を共有しながら、「島田川協育ネット」や小中一貫教育の「島田川学園」のつながりを生かして、学校・家庭・地域が知恵を出し合って進めている活動の事例を発表していただきました。

そして、これまでの取組の成果を生かし、各学園でさらに進めた「今年度の取組」をまとめたものが、別紙資料です。学園ごとに、子どもたちの「自主性」を育み伸ばすために、小中合同で、また学校・家庭・地域が一体となって進めている取組を、子どもたちが「前向きな心」を発揮している活動例としてキーワードとともに紹介しています。

本市では、全国に先駆けて、コミュニティスクールの取組を段階的に進め、9年前にすべての小中学校をコミスクに指定して以来、一昨年度からは、それぞれの中学校区をひとつの“学園”と「次

世代型コミュニティスクール」として新たな一歩を踏み出しています。この資料にある「地域協育ネット」とは、そうした学園の一体的なネットワークを示しています。各学校で、また地域での、10年以上にわたるこれまでの様々な取組を通じて、児童生徒の変容はすばらしく、とても頼もしく感じています。

このあとの事例発表では、やまと学園の大和中学校から「大和を愛し、未来にはばたく大和っ子」と題して、子どもたちが「前向きな心」や、自ら考えて行動する「自主性」を発揮しながら活動している事例について、映像も交えて紹介していただきます。

(6) 事例発表（やまと学園～大和中学校）

【大和を愛し、未来にはばたく大和っ子】 キーワード：〈自律〉〈尊重〉〈創造〉

※ 以下の点について、生徒会役員による説明と活動の様子を写真で紹介する動画を約20分視聴するとともに、大和中学校の発表者から補足説明があった。

①地区別清掃ボランティア活動

・美化委員長の発案による地区内9か所の掃除を地域の皆さんといっしょに児童生徒が年間数回実施している。

②はじけるSMILEあいさつ運動

・毎月15日に4つの小学校区に分かれて、あいさつ運動を実施している。

③いちご甘酒の開発協力

・東荷地区特産のいちごを使った商品開発に中学生が協力（パッケージデザイン、ネーミング）した。

④伊藤公サミット

・伊藤公の足跡をたどりながら、小中学校をオンラインでつなぎ、大和地域の歴史やすばらしさについて学習した。

⑤小中合同合唱

・小中学校の全児童生徒が、光市民ホールにて、やまと学園としての美しいハーモニーを響かせた。

⑥やまと学園ロードレース大会

・やまと学園地域協育ネットの主催で、中学生が実行委員会をつくり、児童生徒が応援あいながら、学園ロードレース大会を実施した。

⑦やまと学園特別支援学級クリスマス会

・特別支援学級に所属する児童生徒が、いっしょに部屋を飾ったり、仮装したりして楽しんだ。

⑧菊づくり

・地域の菊づくり名人を講師に、毎年中学生が一人一鉢で菊づくりに取り組んでいる。

⑨石城太鼓の活動

・大和中学校の文化祭で、小中学生が石城太鼓の演奏を披露している。

⑩まとめ（大和地域の皆さんへのメッセージとして）

「15歳は地域の担い手と言われます。皆様が築いてこられた素晴らしい大和地域に誇りをもち、やまと学園のリーダーとして私たちの立場でできることを、実行していきたいと思えます。」との、生徒会長のことばで締めくくられました。

(7) 意見交換

（議長）

ただ今から意見交換にはいります。子どもたちの「前向きな心」を共有しながら「自主性」を育み伸ばすために、私たちにできることは何か。思いを共有するためにできることはないか。また、所属されている団体や機関で、前向きな心を大切に創意工夫して実施した取組がありましたら、そうしたお話も聞かせていただければと思います。

やまと学園のご発表や各学園の取組の中にも、たくさん共感する取組があると思います。できるだけ多くの委員の皆様の思いやご意見をいただきたいと思えます。

（委員）

今、やまと学園の実践発表を聞いていただきましたが、学園として大切にしていることは、学校・家庭・地域で一体となって「子どもの思いを形にする」「子どもに自信を持たせる」ということです。

子どもたちに自信をもって行動させるまでには、手間も時間もかかるのですが、周りの大人がじっくり待って、子どもたちの成長を促しています。行動した結果が、成功でも失敗でも必ず子どもは成長します。そうしたプロセスを大切にしながら、「子どもが育つ学校」を作っていくた

いと思っています。

(委員)

「子どもが主役」という思いが強く感じられる事例発表でした。また、子どもたちの地域を大切にしたいという気持ちがよく表れていました。やまと学園では、子どもたちの発想やアイデアが企画に十分生かされているなど感じました。

他の地域でも、こうした「発想のタネ」をしっかりとまいていただけるといいなと思います。

(委員)

少し前は、地域の方々が学校に入ってお手伝いをするというのが一般的でしたが、今では、今回の発表にもあったように、子どもたち自身がアイデアを出し、企画し、地域に出て行動するといった形となっており、本当にすばらしいと思いました。

(委員)

コミスクのコーディネーターとして、学校に訪問する機会があるのですが、熟議の中に小中学生が参加することもあります。そうした会議の中でも、またこの度の中学校の生徒会役員選挙の公約の中でも、「地域」を意識した言葉がたくさん聞かれるようになってきています。

今回のやまと学園の取組も、今後担当地域でも参考にさせていただきたいと思っています。

(委員)

私は大和中学校の卒業生でして、今回の母校の発表を聞いて本当に嬉しく思っています。ある調査によると、日本の高校生は他国と比べ「自己肯定感」が低い傾向がみられるのですが、それは「社会とかかわる経験」に影響されるのではと感じています。そうした経験の中で、「自主性」「向上心」「チャレンジ精神」などが培われるのではないのでしょうか。そして、光市はコミスクの取組の中で、親と先生以外に地域の方々を含めた大人とのかかわりがあるというのは、すばらしいことだと思っています。

(委員)

先日小学校6年生が、中学1年生の集団行動を見る機会があり、驚きとともに感動して学校に戻ってまいりました。その後、6年生の言動が目に見えて変化してきて、「前向きな心」というのは連鎖するのだなと感じました。中学生に憧れの気持ちをもって、早く中学生になりたいと多くの6年生が思っているようです。

(委員)

中学校PTA代表として参加していますが、附属中は他校とは違ってコミスクではないので、やまと学園のような取組は少し難しいと感じています。ただ、先日県P連の研修で美祢市の発表を聞く機会があったのですが、その中で、市内3地区の代表が集まってサミットのような場を設け、意見交換をしているそうです。年1回でよいので、そうした学校代表が集まるような場があるとよいかと思います。

(委員)

今日の発表にあった学園ロードレースを見に行った際に、つまずいて転倒した小学生にさっと中学生が手助けに行く場面に出くわしました。すごく温かい光景で、それを見て、「心が育っているな」と強く感じました。最近は人間関係が希薄とよくいわれますが、心を育てるためには、やはり「人とのつながり」が極めて大切だと思っています。

(委員)

素晴らしい取組をみせていただきました。ボーイスカウトでも、ボランティア活動として地域の清掃活動に取り組んでいますが、拾って綺麗にすることも大切ですが、これからは「ゴミを落とさない」という取組を地域ぐるみでできないかと考えています。学校においても、今後、ぜひ取り組んでいくとよいのではないかと思います。

(委員)

私たちの職場には、「きゅっと」というこども相談センターがあります。今のところ相談件数に大きな変化はみられませんが、虐待については増加傾向にあります。また重大な事案は発生しておりません。児童生徒に関することは、早めにご相談いただければと思っています。

また、最近、国において子どもたちに関する施策が議論され進められていますので、本市も学校や家庭等と連携を取りながら、効果的な動きをつくっていきたいと考えています。

(委員)

昨年、今回のビデオにも出ていた生徒会長の女生徒と直接話したことがあったのですが、その際、「私たちも先輩たちに負けませんよ」と力強く答えてくれたことを思い出しました。光市では、どの学園も児童生徒が「主体性」をもって取り組んでくれていますが、とりわけ大和地区の

強みは、先輩のようにになりたいという憧れの気持ちの「連鎖」と、子どもたちにかかわる大人が時間をかけ地域を挙げて関わる中で生まれる地域を愛する気持ちの「循環」ではないかと思っています。

市内の他の学校にも、この「前向きな心」につながる取組を紹介していきたいと考えています。

(委員)

コロナ禍ということを全く感じさせず、生徒が主体性を生かして、多岐にわたって様々な取組を行っていることに驚きました。特に、清掃活動は、生徒の発案から地域を巻き込んで実行したことにとどまらず、今後も継続していくとこのことで素晴らしいと思いました。発表の中で、地域の方々は「優しく、いつも笑顔で、何でも教えてくれる」ということでしたが、私も見習いたいと感じました。

(委員)

本当に素晴らしい実践発表でした。子どもたちが自ら考え実践していくという取組、たとえば地域清掃活動ですが、この中で成功の原理ともいえる PLAN⇒DO⇒CHECK⇒ACTION の流れを経験できるのは、やはり子どもたちを見守り支援する周りの大人があつてこそだと感じています。そしてこの PDCA は、行事などを行う時だけでなく、小中高と成長していく中で、人間形成にも大いに役立っていると思います。

(委員)

やまと学園の地域と一体となった取組は素晴らしいと感じました。特に、地域でのボランティア活動など地域を愛する気持ちがしっかりと育つと思っています。

地域との連携・協働が確実に実践されているなど感じました。

(委員)

25年くらい前、県警の少年課に勤務している際の少年非行の状況ですが、今日の資料にある数字とは桁が2つ違うほど深刻だったことを思い出しました。現在は、いじめやSNS絡みの事案の増加や広域化が懸念される状況となっています。ただ、光市の子どもたちは本当に明るく、登校時は私にも元気にあいさつをしてくれます。

警察としても、非行少年等への対応だけでなく、青少年の健全育成に向けた取組を皆さんとともにしっかりと進めていきたいと考えています。

(議長)

今回は、「やまと学園」で取り組まれている、学校・家庭・地域が子どもたちの「前向きな心」を共有し、地域ぐるみで学びや育ちを支援する中で、将来を担う子どもたちが自主性を発揮しながら、課題解決力を身につけている事例をもとに協議を深めることができました。

私たちも、こうした子どもたちの「前向きな心」が失われることがないように、これからもそれぞれが所属する団体や機関での活動の場において、適切な判断のもとでしっかりと子どもたちの「前向きな心」を育てていきたいものだと思います。

(8) 今後に向けて (事務局)

今回の会議の内容をまとめたものを後日、資料とともに市内各学園の小中学校やコミュニティセンター等へお伝えし、子どもたちの「前向きな心」を共有していただくとともに、活動の参考にしていただこうと思っています。委員の皆様方におかれましても、それぞれの団体・機関におかれまして、支援できるチャンスがありました時には、感染防止を図りながら、ご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。

来年度の協議会では、引き続き「前向きな心」をテーマに、これからの一年間で、さらに進んだ、そして工夫された取組等の発表や意見交換ができればと思っています。

(9) 会長あいさつ

今日の素晴らしい発表、そして皆様との意見交換を終えて、本市が進めてきたコミュニティスクールや小中一貫教育の取組は間違っていなかったなと意を強くしたところです。

ある作家がこう言っています。「人は一人で生まれ一人で死んでいくものだと思っていたが、そうではなく、人は自分が待たれていると感じたときに、生活の軸がグイっと生まれるのだ。」と。

「前向きな心」は、児童生徒の時から大人になるまで、この「待たれる」という体験を積み重ねて生まれてくるのではないのでしょうか。

本日は、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

7 問い合わせ先

光市教育委員会青少年センター (0833-72-2245)